

課題解決演習 叡啓大を視察

ブラジルの大学関係者

広島市中区



ブラジルの視察団
叡啓大の学生の議論を見学する

日本の先端的な教育プログラムを学ぼうと、ブラジルの大学関係者たちが24日、広島市中区の広島県立叡啓大を視察した。同大が力を入れている課題解決の演習などを見学した。

視察団は、同国の28大学の学長、教授たち約40人。瀬戸内海の干潟の再生、東広島市安芸津町の活性化など地域課題をテーマに議論する3年生の授業をのぞいた。入学後の半年間は英語だけで授業をする叡啓大の特徴も学んだ。

視察団代表で、サンカミール口大学院のロドリゴ・カペラート教授(53)は、ブラジルでは経済的な理由で大学進学が2割にとどまり、中退も多いと説明。「学生を巻き込みながら社会課題を解決し、将来必要な人材を育てる叡啓大の授業は革新的だ」と話していた。

一行は、17〜28日の日程で来日。東京、京都など国公立5大学や文部科学省などを訪れ、24日には広島大も視察した。

(余村泰樹)